

北川学術賞 飯塚義明 殿

平成 29 年度 安全工学会 北川学術賞

■受賞候補者 飯塚 義明 (イツカ ヨシアキ)

■選考理由

飯塚義明氏は、1962 年に神奈川県立川崎工業高等学校工業化学科を卒業され、同年、三菱化成（株）（現・三菱ケミカル（株））に入社し中央研究所に勤務されました。1973 年に同社より横浜国立大学工学部安全工学科北川徹三研究室に派遣され、北川徹三教授、上原陽一教授に師事し、安全工学全般について学ばれた後、同社研究所において、同社における安全なプロセスの構築、燃焼爆発や反応危険性評価に関する基礎研究に従事されました。これら基礎研究の成果は、国内外の学会および学術雑誌に発表されて高く評価され、2000 年には「ARC データを用いた断熱速度式の信頼性に関する研究」により安全工学論文賞を受賞されております。

2005 年に三菱化学（株）を退社後は、有限会社 PHA コサルティング社を設立され、従来の総合化学分野に加えて、医薬、農薬、情報機能性材料製造および開発部門の若手スタッフの安全面での人材育成に従事され、安全工学会普及委員会委員、安全工学セミナー講師、安全工学研究発表会座長等、基礎研究の成果を実社会に還元すべく、後進や若手研究者・技術者の指導に尽力され、特に 2002 年からは、座学と実験を取り入れた「安全工学実験講座」を立ち上げ、きわめて高い評価を得ております。これらの功績により、2011 年には玉置功労賞を受賞され、我が国の安全性評価技術の向上に尽力されてきました。

また、それまでの研究成果を取りまとめ、2015 年には、「化学プロセス設計と運転支援のための統合安全化フレームワークに関する研究」と題した論文を横浜国立大学に提出し、博士（工学）の学位を取得されました。この論文においては、プロセス設計を支援するプロセスハザード分析モジュール、個別および集団の事故分析から再発防止策を示す事故分析モジュール、プロセス制御システムの機能不全による初期の危険信号を検知・改善策を示すプロセスヒヤリハット分析モジュールを統合した安全化フレームワークの構築を行って、学術的に優れた提案を行っており、学術界、産業界に大きなインパクトを与えました。

以上、安全工学に関する研究活動、学会活動、社会的活動における業績と貢献は顕著であり、産業界における学術探求の姿として規範となるべきものであることから安全工学会の北川学術賞にふさわしいものであります。

■ 略歴

1962年3月 神奈川県立川崎工業高等学校工業化学科卒業
同年 4月 三菱化成工業（株）（現・三菱ケミカル（株））入社
1973年9月 横浜国立大学工学部安全工学科派遣
1992年4月 プロセス科学グループ グループリーダー
1997年4月 特別研究職 フェロー
2001年4月 三菱化学（株）科学技術研究センター 環境安全工学研究所所長
2003年6月 三菱化学（株）定年退職
同年 7月 同社 嘱託（特命プロジェクトリーダー担当）
2005年3月 同社 嘱託退職
2005年4月 (有)PHA コンサルティング社 代表取締役社長
2011年5月 安全工学会玉置功労賞受賞
2015年3月 横浜国立大学より博士（工学）を取得
現在に至る

以上